

# 令和6年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における

## 北九州市立 高生 中学校の結果分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、令和6年6～7月に、2年生を対象として、「体力・運動能力」と「運動習慣等」についての調査を実施いたしました。（熱中症等の予防の観点から、20mシャトルランについては、5月中旬から6月上旬に実施しています。）

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

本結果は、学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。また、運動習慣については、学校のみでなく、家庭で運動を一緒に「する・みる・話す」ことが大切です。本校では、運動習慣の確立と授業の充実により、総合的に体力の向上を目指しています。ご家庭でも運動習慣の確立に向けた取組の充実をお願いします。

※ 本調査により測定できるのは、体力・運動能力の特定の一部です。

### 1. 調査の目的

- (1) 国が全国的な子供の体力の状況を把握・分析することにより、子供の体力の向上にかかる施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会が自らの子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、子供の体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各学校が各児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

### 2. 調査内容

#### (1) 実技に関する調査

〔8種目〕 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、持久走・20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ハンドボール投げ  
※持久走か20mシャトルランのどちらかを選択するため8種目となる

#### (2) 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査

### 3. 体力・運動能力に関する調査結果の概要

全国・本市・本校の実技調査の結果

<男子>

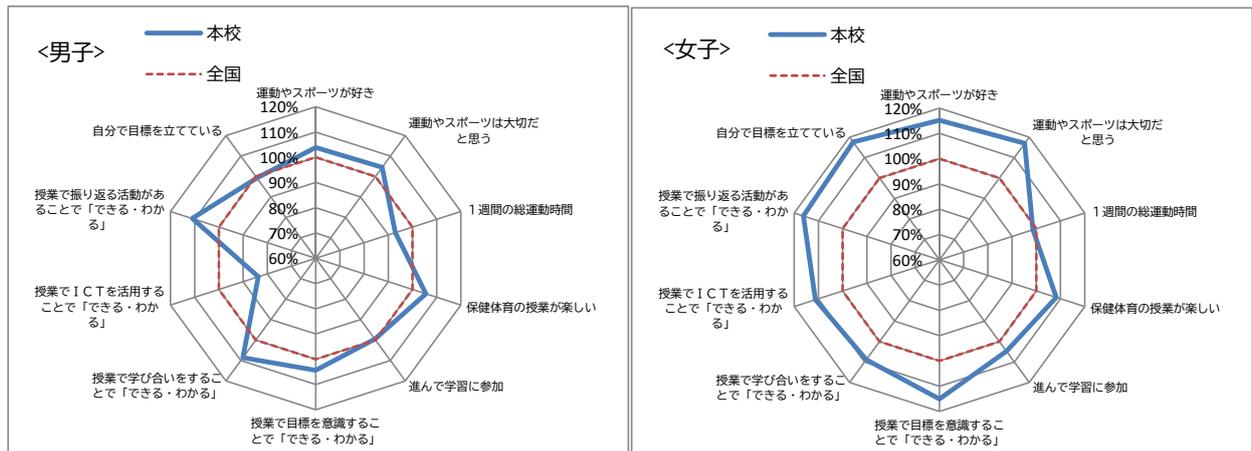
本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	持久走	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ハンドボール投げ	体力合計点
全国	28.95	25.94	44.47	51.51	410.69	78.98	7.99	197.18	20.57	41.86
本市	29.93	26.34	45.51	52.15	463.01	81.17	7.88	201.59	20.38	43.31
本校全国平均以上の種目				○	△			○	○	

<女子>

本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	持久走	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ハンドボール投げ	体力合計点
全国	23.18	21.56	46.47	45.65	309.02	50.67	8.96	166.32	12.40	47.37
本市	23.47	21.97	46.62	46.51	330.19	52.35	8.85	171.43	11.75	48.44
本校全国平均以上の種目		○		○	/	○		○		

#### 4. 運動習慣や生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査レーダーチャート



#### 質問紙調査の結果分析

男女ともに運動やスポーツが好きで生徒が多く、授業も楽しんで取り組んでいることが調査結果から分かる。また、授業で学び合いや教え合い活動を通して、友達通して学びを深め、授業での目標を達成しよと意識することができていることも分かる。しかし、調査結果では、男女ともに【1週間の総運動時間】の割合が全国と比べると低いことが分かった。運動の必要性や重要性については授業で習っているため、多数の生徒が理解している。それを実施・実行するまでに至っていないという結果になっている。課題としては、運動を意識的にしている人としていない人の二極化が目立つため、運動時間を増やせるよう、意識を変えられる取り組みを考えていきたい。

#### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

##### ① 教科(授業)に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- ・怪我防止のために、授業前の準備運動と、授業終わりの整理体操を徹底する。
- ・引き続き取り組むこととしては、授業のはじめに必ず①集団走②ラジオ体操③筋力トレーニング(腕立て、腹筋、背筋)を行い、運動量を確保する。
- ・授業以外で取り組むことを提案したり、【運動をする】ことで、どういった効果があるか、また、【運動をしない】と逆にどう悪くなるかなどを説明し、運動に対するのプラス意識を持ってもらう。

##### ② 運動習慣等に関する取組(1校1取組)

- ・地域の運動行事に積極的に参加するように資料を配ったり、テトルにて配信したりして運動を促す。
- ・体力テストの調査結果を持ち帰り、家庭で一緒に結果を確認することで、学校外の時間でも意識的に運動を取り入れてもらうように促す。
- ・家庭学習が習慣化できるようにセルフスタディノートを活用し、学習時間の確保を徹底している。